

経済産業大臣指定 伝統的工芸品

ゆんたんざはなうい

読谷山花織



ゆんたんざみんさー

読谷山ミンサー



読谷山花織・読谷山ミンサーの歴史は、はるか14世紀にまで遡ります。1372年に琉球から初めて中国へ朝貢したという泰期は、読谷・宇座出身。彼の第一歩をきっかけに、1420年頃になると琉球王国は大貿易時代を迎えます。その時に中国や東南アジア各国から伝来したのが、読谷山花織のルーツとなる緋や浮織の技法でした。この技法をもとに、独自に発展していったものが読谷山花織で、その技術は代々受け継がれていきます。しかし、明治初期に琉球王国から沖縄県へ変わるのと時を同じくして徐々に衰退し、沖縄戦以後は人々の記憶からもすっかり忘れ去られてしまいました。

ところが、1964年のこと。読谷村の情熱ある有志によって「幻の花織」が復興。技術講習会を行うことで人々の関心が高まってきました。1975年に沖縄県指定無形文化財、翌1976年に経済産業大臣指定伝統的工芸品に指定されます。また、同年には読谷山花織愛好会が読谷山花織事業協同組合へと発展。1999年、復興に向けて中心的な役割をはたした與那嶺貞氏が「人間国宝」に認定。現在では、読谷村のみならず沖縄を代表する工芸品として認知され、日本全国、そして世界にまで幅広く知られるようになりました。

Yuntanza Hanai / Yunntanza Minsa

The history of Yuntanza Hanai / Yuntanza Minsa textiles dates back to the 14th century. During the days of the Ryukyu Kingdom, the first person to take tribute to China did so in 1372, and was a man called Taiki, who was from Uza, in Yomitan. Inspired by his initial step, the Ryukyu Kingdom would welcome an age of great trade around the time of the year 1420, during which the Kasuri patterns and Ukiori (raised-weave) techniques that would become the roots of Yuntanza Hanai were imported from China and various countries in Southeast Asia. Yuntanza Hanai developed in its own particular way based on those techniques, and is a craft that has been passed down over the generations. However, it gradually fell into decline as the Ryukyu Kingdom changed into Okinawa Prefecture at the start of the Meiji Period, and by the time the Battle of Okinawa was over it had completely been forgotten.

However, in 1964, the wondrous Hanai was revived by passionate volunteers from Yomitan Village, with practical seminars being conducted amidst increasing interest. It was designated as an intangible cultural asset of Okinawa Prefecture in 1975, and as a "Traditional Craft" designated by the Minister of Economy, Trade and Industry in 1976, which was also the same year in which the Club for Devotees of Yuntanza Hanai developed into the Yuntanza Hanai Business Cooperative Association. In 1999, Sada Yonamine, who had played a pivotal role in its revival, was designated a living national treasure. It is currently acknowledged as a handicraft representative of both Yomitan Village and Okinawa in general, and has become widely known all around Japan and the world.

ゆんたんざ はなうい

読谷山花織

ゆんたんざ

読谷山ミンサー

読谷山花織・読谷山ミンサーは、

およそ600年の歴史を持つ織物

自然染料ならではの色合いと、

繊細な紋様が組み合わせさり、

伝統の美を織り上げていきます。



染・干

美しい色を生み出す



染



干

花織は、天然素材によって染色された糸を紡ぐため、独特の色合いがあります。ゲッキツ、フクギ、イタジイといった沖縄産の木々の樹皮や枝葉を煎じて染料にしてみました。また、こうしてできた自然染料に鉄や銅、ミョウバンなどを媒染し鮮やかな色彩を生み出すなど、長い年月を重ねて染色技術を発展。そして、何度も染色と水洗いを繰り返すことで、絹や綿の糸に独特の風合いが生まれます。



ヤマモモ



フクギ



イタジイ
(オキナワジイ)



グール
(オキナワサルトリイバラ)



ゲッキツ

染色の主な材料と色



鮮やかに浮き上がる

読谷山花織は、花柄を組み合わせて紋様を作っていくのが特徴です。花柄とはいっても花そのものの形ではなく、浮織によるパターン。風車を模したカジマヤーバナ、お金の形のジンバナ、逆三角形型のオージバナという3種類があり、それぞれに意味があります。これらを組み合わせることで、30種類以上の幾何学模様を織っていき、バラエティに富んだ色彩と独特の紋様が生まれるのです。

花柄



カジマヤーバナ
【風車花】

97歳になると風車を配るという習慣から、長寿祈願に使用されます。



ジンバナ
【銭花】

お金をかたどった紋様。裕福になりますようにとの願いをこめて。



オージバナ
【扇花】

末広がりの扇型の紋様は、子孫繁栄の象徴。子宝祈願に最適です。

花織を

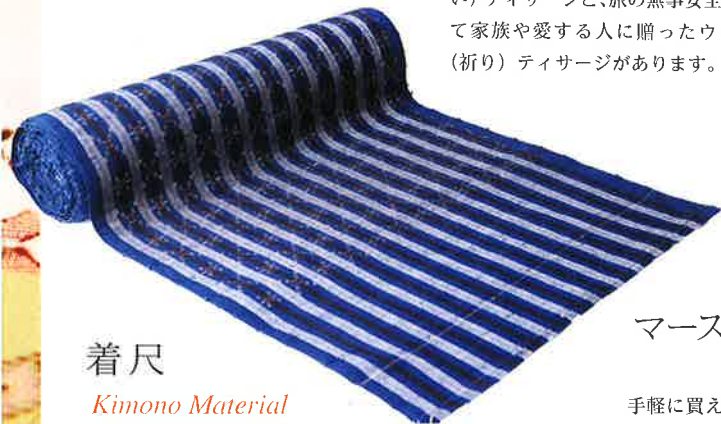
Product list

暮らしに

ティサージ (手巾)

Tisaji (Tenugui cloth)

手織りの手ぬぐいのことで、意中の人のために想いを込めて織るウミイ（想い）ティサージと、旅の無事安全を祈って家族や愛する人に贈ったウミナイ（祈り）ティサージがあります。



着尺

Kimono Material

時間をかけて丁寧にきめ細かく織られた花織からは、ワタジン（婚礼の晴れ着）、ドゥーブク（村芝居の衣装）、ウッチャキ（踊りやエイサーの衣装）など様々な着物が作られてきました。

マースストラップ（お守り）

Masu Salt Strap (Amulet)

手軽に買える人気商品。金運を祈願するジンバナや、子宝祈願のためのオージバナ、長寿祈願のカジマヤーはそれぞれに意味を持っています。



名刺ケース

Business Card Case



テーブルセンター

Table Center Mat

財布・印鑑入れ・メガネケース

Purse, Seal-Case, Glasses Case



ネクタイ

Necktie



カラーパリエーション



花織には、「ひゃあ（ひゃい）ばな」、「ぐうしばな」、「ていばな」という3つの技法があります。「ひゃあ（ひゃい）」は綜紉（そうこう）という織り機で使用する道具のことで、この綜紉を使って織ることからその名が付けました。

ワタジン（婚礼の晴れ着）やウッチャキ（踊りやエイサーの衣装）などに使われることが多く、華やかな紋様は花織ならではの魅力です。「ぐうし」は竹申の意味で、細帯（みんさー）などで用いられる織り方。「てい」は手のことで、刺繍をしたかのように見える織り方で帯地やティサージに用いられる技法です。

華やかな紋様を作り出す

織り



想いと祈りを込めて織り上げる



読谷山ミンサー

「ミンサー」とは細帯を意味する言葉。読谷山ミンサーは綿糸を用いて「ぐうしばな」で織ります。花織と同じく伝統的工芸品として国の経済産業大臣（通産大臣）より指定されました。



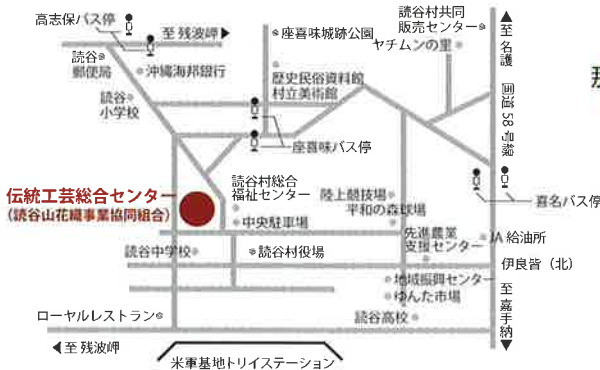
ACCESS

■那覇空港から自動車・タクシーで約70分

※カーナビをご利用のお客様は「電話番号」で検索してください。

■路線バス

- ・那覇空港発：120番で約90分
- ・那覇バスターミナル：28・29番で約90分



読谷山花織事業協同組合

〒904-0301 沖縄県中頭郡読谷村字座喜味 2974-2

☎098-958-4674 FAX098-958-4674

開館時間：平日（9:00～17:00）

土・日・祝祭日（10:00～17:00）

ホームページ <http://www.yomitanhanaori.com>



読谷山
ミンサー体験
実施中



花織を最高の品質でみなさまへ。



織り上がった花織は、厳しくチェックを行います。そして厳重な検査を経た後に、組合証紙や伝統証紙などが貼られ、晴れて伝統的工芸品となるのです。



県証紙



伝統証紙



検査証紙



読谷山花織証紙

